

# はたらき人

沖縄信徒聖書学校  
沖縄聖書神学校

沖縄県那覇市久米町  
2の11 (〒900)  
事務局  
聖書学校  
(電) 09893 (7) 8988  
神学校  
(電) 0988 (86) 2020

家庭には大小さまざまな種類の器具や容器があります。金や銀で造られた器、木や土で造られた器、大切な品を保管する器、余りかえりみられない器、卑しいものを使用される器、私達が普段余り気にとめない様な多くの器があります。高価なものから安いものまで、御茶碗や靴等は毎日気軽に用いられている。しかし金や銀等で造られている高価な器は特別な時だけしか用いられません。それと同じ様に教会もいろいろな人間によって形成組織され運営されている。教会内での御奉仕はかならずしも名声ある人々によってなされているとは限らない。むしろその逆の様に、私達が神様に尊く用いられる条件は、

「卑しいものを取り去る。」ことである。卑しいものとは何か、それは高慢な態度です。尊いを与えられた賜物にもかかわらず、自身自身の努力で得たかのようにふるま

れること。これまでの先人達のなした諸学問、このような知識の氾濫する現実を見せられて圧倒されるような思ひになります。しかし、そのような中にも永遠に変わることはない一貫した聖書が与えられていることを深く感謝しております。自らの神に対する姿勢、社会に対する姿勢が御言葉によって一貫されたものでなくてはならないと思われされております。皆様のお祈りをお願い致します。



## 用いられ易い器

沖縄信徒聖書学校々長

松田善弘

その事業は成功しません。神様が用いたい時にいつも心の準備をして待機していたらなおお声がかかります。それは砕かれた魂だからです。時を失うことなく神の戦いに間に合うようにさせていたいただきたいように。

## あかし

新入生 金城 嘉代子

骨髄炎の為に熱と痛みで耐えつつ成人式を迎えた事が昨日のように思えます。完治したと思われた病が再発というかたちで現われたのも神様の御心ではなかったかと思ひます。

療養生活とは言えあせりといらだちの日々が続くようになった時福音青年センターから離島伝道に姉妹が送られて来ました。短期間の交わりでしたが、私の生き方を価値ある歩みに導いてくれたと言っても過言ではないと思ひます。「一銭のお金を手元になくても不安にならない。神は私の必要を御存知で満して下さる。」と証しする顔は確信に満ちていました。どこからこの確信が出て来るのでしょうか。(二頁につづく)

守的になる例はあるようです。しかし学問の水準を高く維持しさえすれば、神学校として十分な機能を発揮していることになる。見做すのは正しくないでしょう。なぜなら、学問に対する忠実さが、そのまま神と御言葉への従順さの反映ではないからです。真のキリスト者像をかたちづくるのは、御言葉と御霊の働きであって、たんに教育によるのではありません。教育は御言葉にむけて人間を育てる以上のことをしてはならないのです。

者としての学びと神学教師としての学びが別であってよかつたのか」という反省的な問いを自分に向けて提起しております。最後に、協力教会がそのみずから「召し」と「つとめ」を全うするために、互いに協力し、働き人を養成し、共に研鑽しあう場が備えられたことを皆様と共に主に感謝したいと思います。(以上)

## 証し

神学校三年 稲福正一

神学校での学びと訓練に入っちはや一年がすぎようとしております。講義をして下さった先生方、牧師、信者の皆様のお祈りと励まし心から感謝しております。この一年間実に多くのことを教えられました。学校を通して、教会を通して、又自らの生活を通して。聖書について、教会について、牧師について、クリスチャンについて、諸学問について。それらのことに関して色々なところで自分がおかれていることを知らされております。そして、人間のなんと不確実なこと、そうでありながら神はそれらを用いて神の業をなしておら

られるという一人でも多くの

ることに。これまでの先人達のなした諸学問、このような知識の氾濫する現実を見せられて圧倒されるような思ひになります。しかし、そのような中にも永遠に変わることはない一貫した聖書が与えられていることを深く感謝しております。自らの神に対する姿勢、社会に対する姿勢が御言葉によって一貫されたものでなくてはならないと思われされております。皆様のお祈りをお願い致します。

## 七九年度神学校カリキュラムと教師紹介

組織神学(運天康正師)・弁証論(神里常雄師)・ヘブル語(喜友名朝英師)・福音書研究(当銘由正師)・日本基督教史(渡真利文三師)・基督教々育(宮城常行師)・基督教倫理(城間祥介師)・旧約諸論(折田政博師)

神学校では聴講生制度を通して多くの方が御利用下さるようになっております。

## 編集後記

▲早くも初夏の季節となり聖書学校・神学校の総会を前に、「はたらき人」第二号をお届け出来ること感謝です。計画では年三回発行を予定していましたが、事務局の怠慢から一回に終ってしまい申し訳ありません。今年は、なんとか計画通り行いたいと思ひます。▲第一号で、七八年度入学生紹介欄より玉栄良江(城間ナザレン教会)を書き落したことを深くおわび致します。▲「はたらき人」を通して、聖書学校・神学校の歩みを御理解し、お祈り下されば幸いです。

(一頁よりつづく)

この頃の輝きは何だろうか。神と人の為の生きている姉妹の生き方が他の人々と違うのは、信仰によるものだと思います。他の宗教を持った人達とも違うという事は、キリストが本当の神様だからかも知れない。姉妹を生かしているキリストを私も信じたいと思うようになりまして。

病氣もすっかり治り九月に上朝、十月には先礼を受けました。九月の特別集会において神様の恵みに預りました。クリスマスチャンになりたいたいながらも自分が罪人である事を認める事が出来ません。「あなたは今の自分の状態に満足ですか。この状態で今後も居続けるつもりですか。」と講壇から問われる。どのように祈るかわからないまま、「現在の自分で良いはずがありません。出来るならば私を変えて下さい。」と祈りました。十字架が示され、イエス様が私の罪の身代わりとなって下さった事や自分がどんなに罪深い者であるかがわかりました。そして、神が生きて働かれる神であることを身近に感じ、罪の許しと救いの喜びで感謝に満ちました。

リストを信じたいと思つた動機などを省りみて、取るに足りない者だけど主に喜ばれる者になりたいと思います。「献身」というテーマで青年の集会が持たれた時、神学校で学ばれた方が牧師、伝道師になる事だと云う誤った考えのもとで「献身」をあえて考えようとした。自分自身を反省致しました。自覚者の報道を耳にするたびに心を悲しませるのだが、それだけでは何にもならないのではないかと。特に子供の自殺は心が痛い。「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。」とあるように聖書の教える罪や命の尊さを共に考え、語り、折れないものかと思う時、まず私自身が整えられなければならぬのだと思ひ、聖書学校における学びは決してなまやさしいものではないと思ひます。主の助けと導きを頼りに訓練され、喜んで仕える信徒、自己満足の為ではなく主の働きのために祈ります。

卒業生 田頭 明子

信徒聖書学校で学ぶことをお許し頂いて二年、卒業予定の日も間近になりました。忙しい御仕事を

持ちながら学んでいる方、又、中部から通っていらつしやる方、皆様勉強熱心で、そして信仰の上でも多くの事を学ばして頂き感謝して居ります。入学当座は中年の私、その上今までの勉強不足、どうなることかと自分ながら不安で一ぱいでしたけれども、そこは普通の学校と違い、主にある愛と忍耐の満ちたふんい気の中、どうかやって行けそうだと自信がついてきました。そして先生方のいきいきとした聖書についての御講義に、例えようのない喜びと感謝を持って参りました。聖書を神様のことばと信じるという事を聖書から何か靈感を受ける奇跡的なことを行うことだというけれど、考えを持っていました。けれども、聖書は理解すべき本であり、正しい信仰を育てるために、正しく理解しなければならぬこと、そして正しい信仰の上に神様が働かれるとき奇跡的な出来事も又生じて来るということをごの学校での学びを通して発見致しました。そして聖書は多くの大文学者を育てた文学の書本であり、又偉大な政治家が育つために大きな影響を与え、そして現在の文明社会が形作られるための基礎となつた書である、ということを知りました。この様に

はたらき人

養成の重要性

理事長 国吉 守

南国沖繩の太陽が燦然と眩しいばかりに輝く夏がやって参りました。主に在る兄弟姉妹にはますますお元気で宣教のみわざに日夜お励みのことと思ひます。

一九七四年に創設された沖繩信徒聖書学校も今年で第四期卒業生を送り出すまでに成長し定着していることは神の御恵みと皆様の大なる御協力の賜物と深く感謝いたしております。卒業生はそれぞれ教会で、職場で、或いは神学校で更に研鑽を積み主の忠実なあかし人として活動しております。一期生の桃原兄は今春神学校を卒業し、すでに母教会に迎えられ、同期生の夫人と共に開拓伝道に従事しております。※(三頁につづく)

※(二頁より)

今後日本の福音化のために本校の卒業生も大きな役割を果たすことと想ひます。

昨年創設された「沖繩聖書神学校」も生徒一人という小さな神学校ですが二年目を迎え、神がこの地に与えたこの二つの指導者養成機関を私共は心から感謝して祈りと協力と献金をもって支えていくようではありませんか。皆様の絶大なご協力をお願い致します。

卒業生

教会・安仁屋和子 (天久神の教会)・内間重雄 (首里バプテスト)・伊波苗子 (石川福音教会)・齊藤洋子 (那覇ナザレン)・当山涼子 (同盟沖繩中央教会)・知花繁泰 (城間ナザレン)・新垣良明 (那覇ナザレン)・安慶名貞江 (同盟国場教会)・田頭明子 (那覇バプテスト)

新入生

赤嶺昌美 (城間ナザレン)・稲福つや子 (那覇聖書教会)・金城嘉代子 (那覇ナザレン)・儀間妙子 (希望が丘教会)・下田清亀 (那覇ナザレン)・友寄隆徳 (城間ナザレン)・古堅ふさ美 (那覇バプテスト)・屋宜美佐子 (希望が丘教会)。

雑感一年

教会・神学教育・牧師

沖繩聖書神学校専任教授 運天 康正

協力教会の一員として、神学校をどのように受けとめ、意味づけまたどのように用いて行くかを皆様と共に考えてみました。

「はたらき人」紙第一号の中で信徒聖書学校校長・松田善弘牧師は「沖繩の地に伝道者、或いは信徒訓練の場としての神学校、聖書学校等が設立されることを多くの牧師、伝道者が祈っておられたのであった。」と回顧され、また理事長の国吉守牧師は「神の摂理の中に誕生したこの神学校を私共は心から愛し、祈りと献金をもって支えて行きます。」と協力を呼びかけております。さらに神学校々々長の渡真利文三牧師は「沖繩信徒聖書学校の第一回総会において、わたしたちは、三年後に神学校を設立する旨決議した」と跡付け、「待望の開校を祝うことができた。」を感謝の言葉を述べておられます。これらはまた、すべての協力教会の心からの「然り」でもあったと思われまふ。

従って神学校は、協力教会にとつて、ただ自分たちの教派グループの為というだけでではなく、共にキリストのからだである教会に属し、しかし同じ土俵で四つに組み、魂の救いの労苦を分かち合っているものとして、どの教会であつても、神学校、あるいは主に仕える人々の訓練のために、それを自分のこととして考えなければならぬ。このように、教会と神学校との関係は、極めて重要であり、事実そのことが自覚的に認識されない限り、健全な成長発展は期待できないであろう。

幸い、わたしたちは神の導きの下に、すでにそのような共同の意志にもとづく教育母胎を組織し、神の栄光をあらわしつつあることを感謝したい。

また、渡真利校長は「神学は教会に仕える学であり、従って神学校の教師は牧師や伝道者が主力とならねばならない。」とも述べておられます。確かに、この神

学校の特色の一つは、理事会が牧師たちによって構成され、教師陣も、専門の神学教師たちではなく牧師、伝道者と信徒が主力となっていることだと思ひます。

即ち、この神学校においては、牧師たちによって教師と学生の諸般のことが統轄されております。なぜなら、牧師になるべく召しを受けている人々を指導するのは、本来牧師の任務だからです。

もし、「教育権」という言葉を用いてよいならば、神学生に対する教育権は牧師たちにあるといえます。

牧師たちが、教師として教壇に立ち、学びつづ己がつとめを遂行しているその姿勢に、じかに学生を触れさせ、何を如何に学ぶべきかを体得させるのです。こうして教会伝道の現場と直結した実践的な神学教育ができるように配慮されていくのです。

ところで、神学校がこのように運営されると、神学の学問としての水準は低下するのではないかという懸念があります。一概にはいえませんが、牧会現場との結びつきが深まれば深まるほど、実践面が強調され、その学問としての厳密さを失い、神学姿勢は極端に保

※(四頁につづく)